

# 春



肥前えむかえ



## 繭玉まがり



繭玉の中には複雑なデザインのものも多いが、女性たちは皆、「繭玉は誰にでも手軽に作れるんですよ。やってみませんか？」と口をそろえる。繭玉は小さいものだと直径二センチ程で、発泡スチロール製の玉に切り込みを入れ、かぶせた布をへらで押し込んで作る。まちの女性たちは一年を通して、祭りの日のために手を動かしているという。祭りの約一カ月間、まちでは繭玉づくりの体験をはじめとするイベントもあり、多くの観光客で賑わう。春の到来を喜ぶように、風に揺れる繭玉。華やぐ江迎のまちは、訪れる人の心を弾ませてくれる。

「中には」と中へ入れれば、天井いっぱい繭玉を飾っている店や、古布を使った作品を展示している店など、その表情はさまざま。しかし、共通しているのは、出迎えてくれる女性たちが実に生き生きとした表情をしていることだ。皆、「招福の意味もある繭玉は、縁起物なんですよ」「なんととっても、この柄合わせが楽しいの」「古布を使ったものは趣があるでしょう」「これは江迎町の花、水仙をイメージして作ったんですよ」……と、嬉しそうに話してくれる。繭玉のかわいらしさもさることながら、こうした地元の人たちのおしゃべりも、この祭りの大きな魅力だ。

ようやくうやく寒さが和らぎ、花々の蕾がほころび始める三月、佐世保市江迎町のまちは「繭玉」一色に彩られる。祭りのきっかけは、十八年前に地元女性たちがまちおこしの一環として、繭玉づくりを始めたこと。最初は乗り気でなかった人たちも、手仕事の面白さに次第に魅了され、今では多くの女性たちが祭りのために繭玉を作り、その腕前を競っている。華やかな雰囲気に含まれた商店街を歩けば、店の前には色とりどりの繭玉が結ばれた柳の枝が飾られている。それぞれの店の人の手作りなのだろう。一つ一つに違う個性が見られる。「こん

まちが元気に  
なりますようにと、  
一つ一つに  
想いを込めて。

